

大河ドラマ「西郷どん」が始まりました。

僕は幕末の大河ドラマはだいたい見えています。

幕末は、若い志士が夢（志！）を抱いて躍動する時代。ワクワクしてしまいます。

とりわけ、西田敏行さんが西郷隆盛を演じた「翔ぶが如く」には感動しました。

テレビの前で号泣してしまった最終回のエンディングシーンは今でもよく覚えています。

西郷も大久保も亡くなった後、生まれて間もない赤ん坊に、海岸にたたずむ田中裕子さん(西郷の妻役)が「この国の行く末をしっかりと見届けて」と語りかけた後、桜島を見上げます。ここでカメラがひいて上空から赤ん坊を抱く田中裕子さん、その背後の現代の鹿児島市街をあえて映し、そしてまた時の流れを見守っているかのような桜島を映して終わります。多くの人が夢と命を紡いで、この赤ちゃんがいて、今がある。それは僕も同じこと。先人に感謝。先祖の苦勞に感謝。両親の愛に感謝。未来をくれたことに感謝。。



さて、平成30年1月4日、安倍内閣総理大臣が年頭記者会見を行いました。その中で、1月22日から召集される通常国会を、「働き方改革国会」と位置付けし、歴史的な大改革に挑戦する旨を宣言しています。

「本年、働き方改革に挑戦いたします。

正規、非正規、雇用形態にかかわらず、昇給や研修、福利厚生など、不合理な待遇差を是正することで、多様な働き方を自由に選択できるようにします。長時間労働の上限規制を導入し、長時間労働の慣行を断ち切ります。ワーク・ライフ・バランスを確保し、誰もが働きやすい環境を整えてまいります。

70年に及ぶ労働基準法の歴史において、**正に歴史的な大改革に挑戦する。**

今月召集する通常国会は、『**働き方改革国会**』であります。」

「子育て、介護など、それぞれの事情に応じた多様な働き方を可能とすることで、一億総活躍の社会を実現してまいります。」



今年、安倍総理が「**歴史的な大改革**」とまで言う労働基準法の法改正が進められます。

2060年には労働力人口（生産年齢人口）はピーク時の半分となり、総人口は2105年には4500万人に減少すると予測されている日本。

世界の先端をいく超高齢社会と少子化。

僕たちは、「歴史的な大改革」という、この国の歴史的な節目に立ち会うことになるのかもしれませんが。

むむむ。そう考えると僕たちはラッキーかもしれませんよ。(^^ゞ

平成の世も来年で終わり。幕末ではありませんが、言ってしまうと、今は「平成末」。

僕らが幕末の志士にワクワクするように、もし皆さんの会社に社史があったとしたら、100年後の人は今の時代を振り返り、あの時代に生きてみたかったとワクワクするのかもしれませんが。(^^)!



幕末の長州藩の高杉晋作は、わずか84名で功山寺に集結して、約2000人の幕府派に戦闘を挑みました。そんな彼はいつも三味線を持ち歩いていたと言われています。

命をかけた緊迫した時であっても、彼は楽しむ気持ちは忘れなかったのです。

そして絶体絶命であったはずの闘いに勝利し、長州はその後、薩摩とともに維新への道を推し進めていくことになります。

「**おもしろきこともなき世をおもしろく**」とは、その高杉晋作の句です。

「命」をあえて別の言葉に言い換えられるとすれば、それは「時間」ではないでしょうか。

ワーク・ライフ・バランスを掲げる「働き方改革」は、個人個人の「時間の使い方」改革。

すなわち「命の使い方」改革と言えるかもしれません。せっかく先祖や先人が紡いでくれた命。

どうせなら、おもしろき世にするよう時間を使いたいですね。

